

7 4 《聖マタイの召命》・ 必須な現地展示環境改善

現地実態・ウィキペディア図版の比較

2024

真鍋友範



サン・ルイージ・デイ・フランチェージ聖堂 コンタレッリ礼拝堂



《聖マタイの召命》図版

さて、現地と図版との、両者の見え方の違いはどの部分だろうか。

【現地作品のイエスを見ても、不鮮明なイエスの右手しか見えない。
従って、物語を読み取ろうとしても、【関心はイエスの右手だけに集中する。】】

この現地での劣悪な展示環境、具体的には【照度不足の展示環境】は、観衆に

対し、正確な事実を伝えることに失敗しているのだ。

【せめて、暖色 LED 照明に改善して、イエスの全体像がはっきり見えるよう改善すべきだろう。】

誤った解説情報が400年間伝わり続けたのだが、その原因の一つに、この聖堂内の照度不足にあることを、是正しない限り、カラヴァッジョの描いた真実の内容は、永遠に鑑賞者に伝わらない。(小銭を投入すると、数分間明るくなる仕組みがあったが、現在もあるのだろうか。あったとしても暗い展示環境だ。)

【その他の展示環境改善】も必要であることは確かだ。

【問題は、展示スペースが、聖堂内の狭い礼拝堂部分であること】だろう。

せめて、【真正面から《聖マタイの召命》を見られるように、改善できないものか。】

具体的には、【一定期間でも、《聖マタイの召命》と、《聖マタイと天使》を入れ替える方策は、いかがだろうか。】

そうすれば、【イエスの左手の様子】も【イエスの足元の様子】も、真正面から見られ、正確にストーリーを読むことが可能だ。

あるいは、【正確な実物大コピー作品を制作】し、内容について、別の場所で観衆に解説できるコーナーを別途設定するのはどうだろう。

工夫すれば、正確な情報を世界に再発信することは可能だが、要は、ローマ・カトリック教会のやる気次第だ。

天動説を400年放置した宗教団体に、この《聖マタイの召命》の大間違いを是正する良識があるのか、そこは真に問われるところだ。

種々改善には、あと400年必要なのかもしれない。